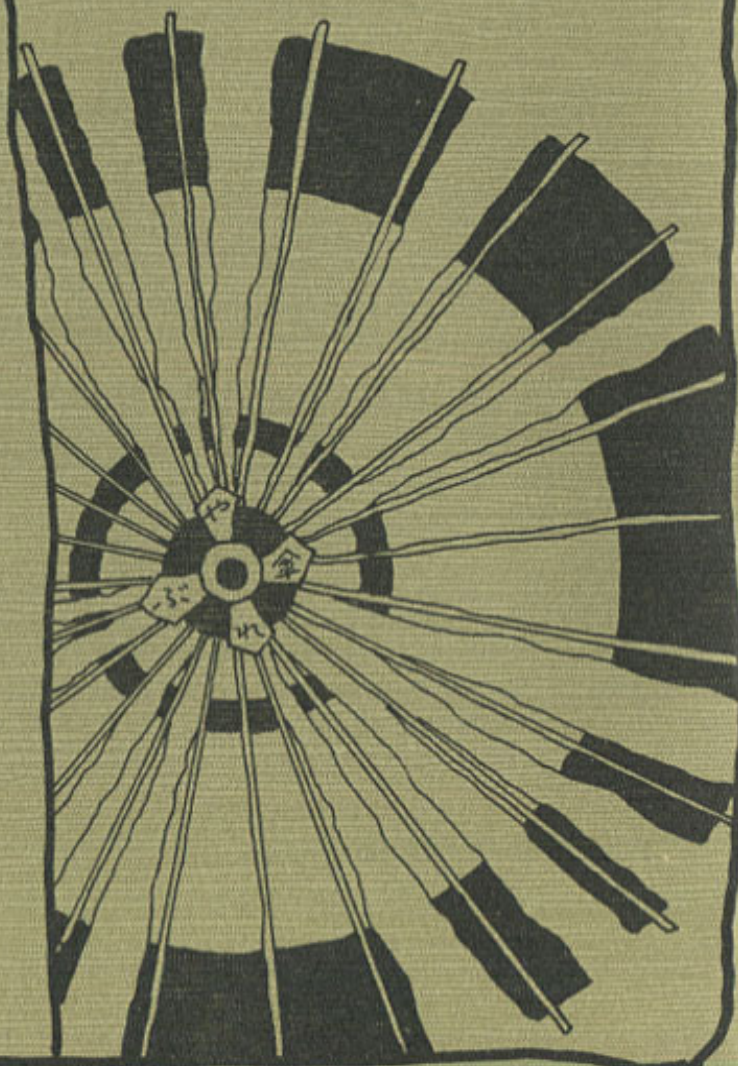


やぶれ傘



八十六号

二〇一五年十月

夜の秋の泡のほりつくハイボール 根橋宏次

ひと歩き臭木の花の下にくる 大島英昭

水溜まり小さくなりて秋の蝶 きくちきみえ

蟬時雨ガラスの壁に水流れ 丑久保 勲

沿線の案山子電車に向いて立つ 廣瀬雅男

秋の風白い絵のある白い皿 藤井美晴

金魚鉢へとビー玉を沈めけり 瀬島酒望

シーサーに八月十五日の雨 青谷小枝

芋虫のだらりと鳥に銜へられ 小山陽子

円窓の向かうに池や昼の虫 安藤久美子

稲びかり川の流れのしづかなる 白石正躬

虎尾草の尾を次々になでてゆく 菊池洋子

山の影さしかかりたり稲の花 渡邊孝彦

びちやびちやと猫が水飲むばつたんこ 有賀昌子

野良仕事終へて飴玉鯛雲 久世孝雄

抄 集 句 傘 れ ぶ や

選 夫 紀 崎 大

やませ来る浜に揚げ舟二つ三つ 秋山信行

間引き菜の箒いつばいを御浸しに 國保八江

蟻の道払ひて座るベンチかな 松村光典

竹林の風を背に受け墓洗ふ 貫井照子

テントより首だして見る天の川 野口希代志

こんにやくの黒き斑点村祭り 萩原溪人

夏帽子手を挙げて来る交差点 広瀬 濟

朝霧に汽笛重なるハロン湾 山本久枝

朝顔や目礼交はす通勤路 浅嶋 肇

布着ののきせの輪島の椀や新豆腐 奥田温子

夕焼けて乾ききつたる外流し 上林富子

包丁のすばらしく切れ秋旱 菊地葉子

湿布剥すやびりびりと秋の暮 忽那みさ子

夏の月熟して山に落ちにけり 小巻若菜

コスモスに埋もれし標無人駅 鈴木昌子

芋
虫

小山陽子

胃もたれを抱へて歩く溽暑かな
夕暮れの都心の方に雲の峰
雑貨屋によき匂ひある秋初め
芋虫のだらりと鳥に銜へられ
燕帰る巢はそのままに車庫の壁
冷凍のパンのパキッと折れて秋
秋祭り果てて道には髪飾り
秒針の光る位置あり秋灯
秋の昼本の頁にチヨコの染み
名月の周りだけ雲なきやうな

竹煮草

安藤久美子

隧道につづく隧道竹煮草
草臥れて抹茶小豆のかき氷
空き缶と空き壕並ぶ残暑かな
水引や湖にさざなみ岸に舟
円窓の向かうに池や昼の虫
下り築近くに魚焼く茶店
おむすびの海苔のぱりりと秋海棠
秋めきて抹茶の泡のきめ細か
山の湯に硫黄の匂ひ茸飯
コスモスのまだまだ揺れて日が沈む

黒豆の花

白石正躬

送り火を絶やさず墓へ戻しけり
船の音消して灯笼流しかな
稲びかり川の流れのしづかなる
秋草と土手の斜面に吹かれをり
水榭の小枝をおとし芋嵐
登り来て昼におにぎり松虫草
黒豆の花はむらさき屈み見る
草の露ふんで小犬と野良まはり
川風はかるく稲穂をゆらしけり
水澄むや川面に映る雲の影

虎尾草

菊池洋子

包丁のにつちもさつちも栗南瓜
秋草の一輪挿して山の宿
山小屋のソーラーシステム朝曇
とまりたる草ごと吹かれ赤とんぼ
浮いてゐし井戸の西瓜のずつしりと
酔の匂ひひさせて一品胡瓜もみ
秋暑しつぎのバス待つ二十分
片陰を歩く図書館までの道
動くともうごかざるとも金亀子
虎尾草の尾を次々になでてゆく

稲の花

渡邊孝彦

陸橋の下は坂道夏木立
さるすべり手摺の白き磴の道
湿原の水落つる音塩蜻蛉
坪庭に雨後の日差しや秋簾
街灯がぼつんぽつんと秋の宿
山の影さしかかりたり稲の花
ビル工事音のとほのく竹の春
用済みの卒塔婆秋日にさらされて
外灯の照らす縁石虫の秋
木甕豆の実の垂れさがりゐたりけり

ばつたんこ

有賀昌子

溪流に木洩れ日揺るる青胡桃
昼下がりのピアノ連弾小鳥来る
かなかなや腰牽引にうとうとす
ころころと猫のころがす櫟の実
あつけなく沈む夕日や獺祭忌
花つきの朝の胡瓜を挽ぎにけり
柵にボール挟まつたまま秋黴入
ぴちやぴちやと猫が水飲むばつたんこ
まんじゅしやげ腕にひとつの注射痕
秋高しラップで握る塩むすび

鰯雲

久世孝雄

脳内を空つぽにして草を引く
国会の討論耳に昼寝かな
厨房へ引きたる清水父の郷
わりばしの足のふらつく茄子の牛
ひまはりの実になるを待つ敗戦日
研ぎ上げし鎌の切れ味晩夏光
風の来て影揺れてをり赤とんぼ
浮島や水面に映ゆる曼珠沙華
稔田のとなり魯田畦を行く
野良仕事終へて飴玉鰯雲

やませ

秋山信行

片蔭に抜け落ちてゐる鳥の羽
山寺や手水に浮かぶ竹落葉
畑に水はこぶ日暮や金亀虫
自動車の灼けて青空駐車場
箸の間を冷さうめんの流れゆく
やませ来る浜に揚げ舟二つ三つ
青田風吹きゆく先に不動堂
波頭白く寄せくる月の湾
羽州路や農夫に貫ふ茗荷の子
天守跡の大きい礎石や赤蜻蛉

目 高

國保八江

古火鉢父の飼ひたる目高居て
ぱつたりと友と会ひけり花火の夜
大粒の葡萄ひと房お供へに
頭上より火の粉振り来る大花火
身をかたく齒医者の子に蟬の声
すつと来てすつと去りけり鬼やんま
子の墓に秋の七草供へけり
間引き菜の旅いつぱいを御浸しに
棚経の僧そそくさと経を読む
鶏頭の赤のいささか錆びゐたる

蟻の道

松村光典

落ち蟬に語りかけたき終戦日
水遣れば虹が立つなりわが庭に
昼前にひと雨ありて蟬しぐれ
すいか割り四方八方砂割られ
蟻の道払ひて座るベンチかな
線香を点ける間も蚊に刺さる
秋空をすこし覗かせ降りしきる
バス停にひまはり二輪頭垂れ
銀杏の枝にたわわや八月尽
セルビアに来ても秋雨降りやまず

曲屋の庭を余さず百日草
足もとを一枚羽織る夜の秋
寺の子の声のときをり秋彼岸
新涼や泡たつぷりのカプチーノ
一合の米炊きあがる夜の秋
かまきりの逃げるに羽を使ひけり
酒少々塩少々零余子飯

中島和子

石橋の亀は緋鯉に首のぼす
子等の声庭に真白き補虫網
大瑠璃の声を間近に舟下り
名物の厄除だんご時鳥
裏木戸に蟬のむくろや蟬時雨
をさな兒もエプロンかけて盆饅頭
竹林の風を背に受け墓洗ふ

貫井照子

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
12月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	國保八江
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	上野動物園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

〔注〕 ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

12月20日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR上野駅公園口改札口。吟行地は上野動物園。句会場は滝野川会館(古河庭園の斜向かい)。

◎連絡先

瀬島 孟 ☎ 048-862-2757	藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
大島英昭 ☎ 048-592-5041	WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522	浦和コミセン ☎ 048-887-6565
丑久保 勲 ☎ 048-853-3856	WEP俳句教室 WEP編集室へ